

2020年9月1日

一般社団法人 日本結晶学会
会長 山縣ゆり子 殿

物質構造科学研究所 所長 小杉信博
同 放射光実験施設 施設長 船守展正
J-PARC物質・生命実験施設 デイビジョン長 大友季哉

貴学会におかれましては、常日頃、大学共同利用機関・物質構造科学研究所に対する数々のご支援に感謝申し上げます。また、このたび、学生および若手研究者の支援に関する要望書（8月17日付）をいただき、ありがとうございました。

回答を差し上げるのが遅くなり、申し訳ありません。現在、当研究所におけるPF放射光施設、SPF低速陽電子施設、J-PARC MLF中性子施設（物構研）、ミュオン施設では、学生および若手研究者を含むコロナ禍での共同利用の対応状況は、以下のようになっております。

【PF及びSPF】

PF及びSPFでは通常の5月連休明けの共同利用は断念しました。ただし、ご存知の通り6月後半に遠隔化・自動化に向けた試験的な実験や直近の学位取得に必要な実験を優先しながら限定的な利用運転を行いました。現在、PF及びSPFにおいては、10月の運転再開に向けて、遠隔化・自動化をはじめ各測定手法に適した準備を進めております。10月以降の共同利用については、細心の感染症対策のもと、通常通りの運転時間を確保する予定です。直近の学位取得に必要な実験など、学生や若手研究者の共同利用に支障はない見込みです。

【MLF】

MLFでは、今年度6月27日までの通常の運転期間において、年度当初の13日間、運転を停止せざるを得ませんでした。その後、感染症対策を実施した上で、通常の運転に戻すべく居住地区の状況を把握しつつ段階的に入構制限を緩和していきました（完全解除までは47日間）。現在、夏季メンテナンスのため停止中ですが、年間運転計画には変更なく、11月に通常通り再開予定です。遠隔化や自動化の準備も進めており、出張を伴わない課題実施についても秋以降に段階的に実現予定です。MLFでは学生および若手研究者の支援は重視しているところですし（<http://j-parc.jp/c/student/index.html>を参照）、学生を代表とする課題申請も可能にしております。ただし、大学共同利用が共用施設としての共通の枠組みで実施されている関係で、学生および若手研究者の支援のための優先ビームタイム等の措置はすぐには難しい状況です。大学共同利用としては非常に重要なところですので、現在、関係者と議論をしているところです。

物質構造科学研究所の各施設では共同利用者の4割～5割が院生となっており、大学共同利用機関として学生や若手研究者の人材育成への貢献を重視しているところです。今後も前向きに改善を進めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上